

# 世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）について

---

2023年8月10日

文部科学省

基礎・基盤研究課

◆「国際脳循環のハブ」を目指す拠点を長期・集中的に支援 (7億円×10年間/機関)

【WPIのミッション】

- ① 世界を先導する卓越研究と国際的地位の確立、 ② 国際的な研究環境と組織改革、 ③ 次代を先導する価値創造

◆ 公募段階で研究領域を定めない「ボトムアップ型」の基礎科学の拠点形成を支援。

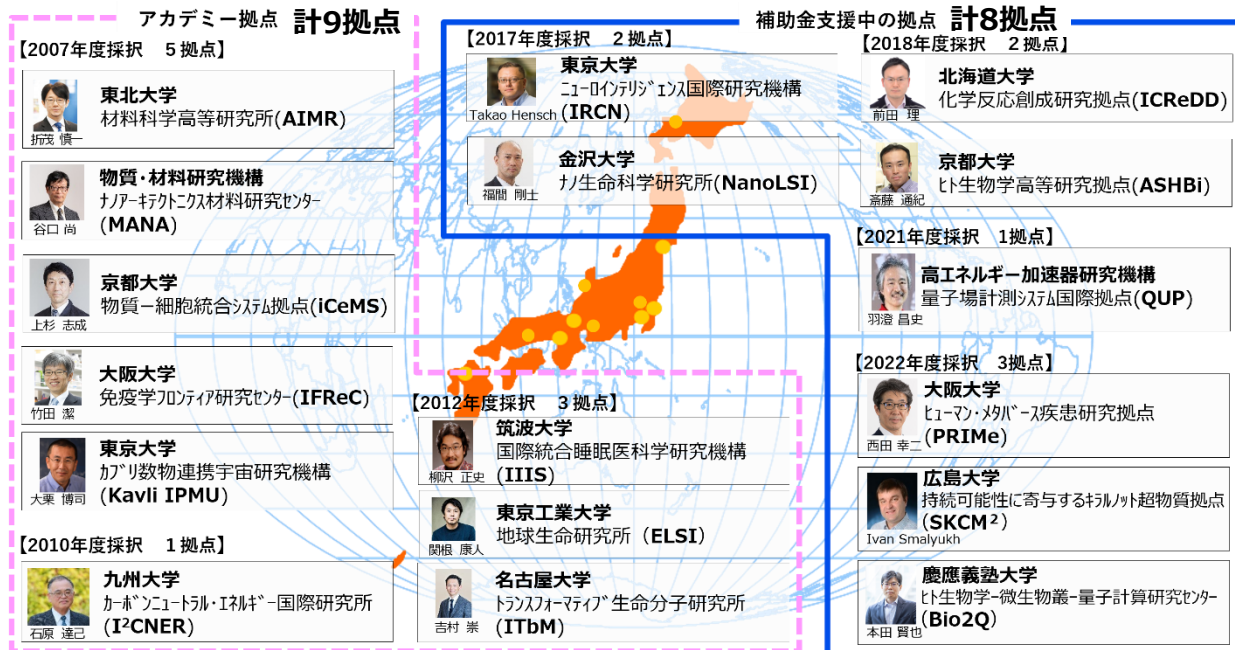
※別途、研究費を外部資金等で獲得する必要

◆ 世界トップレベルの研究水準を誇る国際研究拠点の形成に向け、以下の要件を設定。

- 世界トップレベルの主任研究者が7～10人以上
- 拠点の研究者のうち3割が外国人であること、ポストクの国際公募、拠点の公用語は英語
- 能力に応じた俸給システム、トップダウン的な意志決定システムなどの研究システム改革の実施

◆ 国内外のトップサイエンティストを集めた有識者会議 (プログラム委員会) にて、採択拠点の丁寧な進捗管理・評価を実施。

WPI拠点一覧 ※令和5年4月現在



WPI拠点の状況

- Top10%論文の割合  
WPI平均：約20%  
(日本平均：約8.5%)
- 国際共著論文割合  
WPI平均：約50%  
(日本平均：約30%)
- 外国人研究者の割合  
WPI平均：約40%  
(日本平均：約8%)

# WPI拠点の成果①（世界から目に見える研究拠点の形成）

## ① 世界を先導する卓越研究と国際的地位の確立

- ✓ **トップサイエンスの実現により、世界的にもユニークな研究拠点として国際的地位を確立**
- － 拠点長の長期ビジョンに基づく拠点運営のもと、複数領域のトップレベルPI 10～20人が **1 機関のアンダー・ワン・ルーフ**によりトップサイエンスを実現。
- － 高い成果創出につながる研究環境・研究システムにより国際競争力の高い「世界から目に見える」研究拠点を形成。

## ② 国際的な研究環境と組織改革

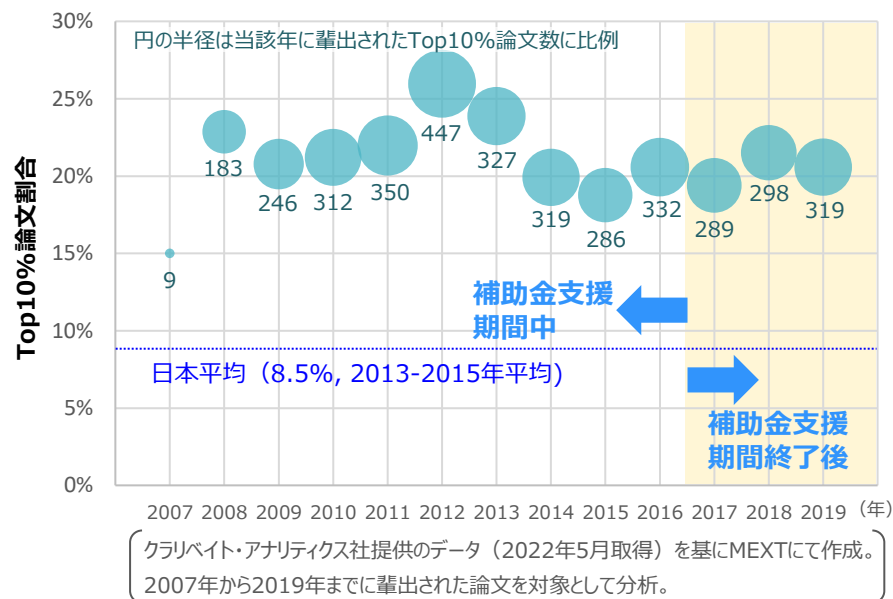
- ✓ **世界トップレベルの研究拠点にふさわしい国際研究環境を形成**
- － WPIは、世界から目に見える拠点となることで**海外から優れた研究者、ポストク等を採用**。国際的な頭脳循環、国際的地位の向上などの好循環につながる。
- － クロアポや能力給の導入、拠点長を中心とした**トップダウン型マネジメント**など、研究システム改革により国際研究環境の形成を加速。

## ③ 次代を先導する価値創造

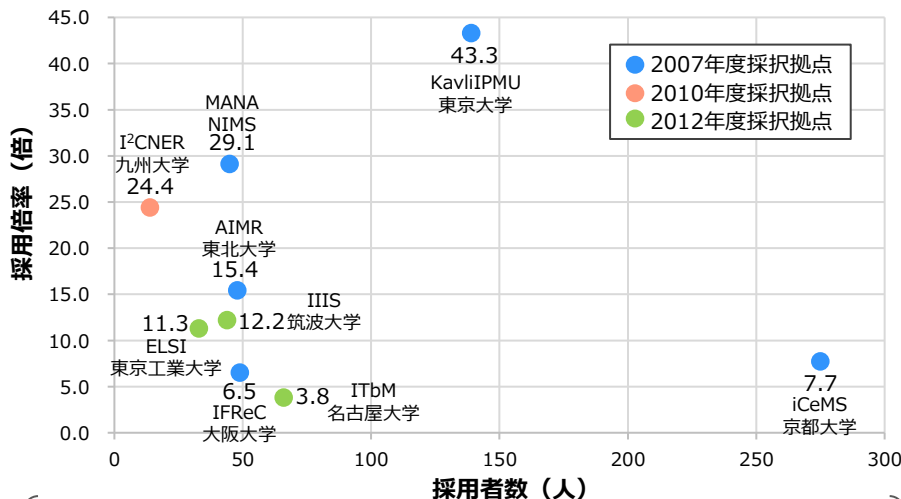
- ✓ **基礎科学の有する知的アセット価値化の好事例**
- － 海外財団や民間企業からの大規模投資など、基礎科学で**卓越した研究成果を創出する研究拠点は、社会から高く評価**。  
例：大阪大学IFReCと製薬企業2社の包括連携契約（10年で100億円+α）  
東京大学Kavli IPMUは米国カブリ財団からの約22.5億円の寄附により基金を造成

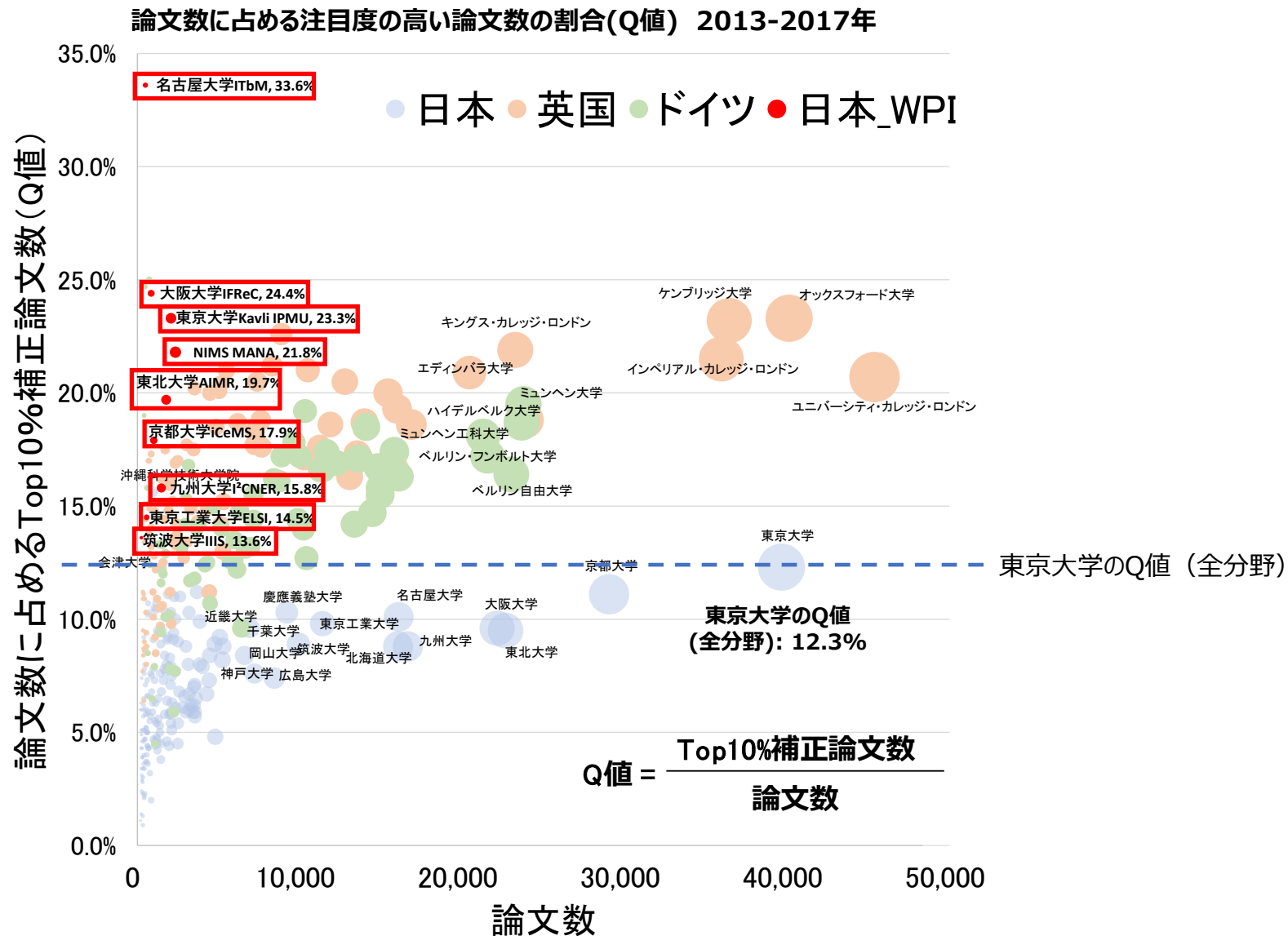
- ✓ WPIにより、高い研究力と優れた国際研究環境を有する**拠点を1つの機関に構築**。
- ✓ 機関内に、研究マネジメントや国際研究環境の構築手法等のグッドプラクティスが蓄積し、**WPIは極めて高い成果を挙げている**。

## ◆ 2007年度採択拠点のTop10%論文割合及びTop10%論文数



## ◆ WPI拠点のポストク採用倍率（9年平均）及び採用者数（9年累積）





注1: Article, Reviewを分析対象とし、整数カウント法を用いた。  
 注2: 論文数に占める注目度の高い論文数の割合(Q値)は、著者数100人以下の論文で分析した。  
 (データの出典)クラリベイト・アナリティクス社 Web of Science XML (SCIE, 2018年末バージョン)を基に、科学技術・学術政策研究所が集計。